

桶ツ卓球ルールブック



丹波篠山市立中央公民館

監修 丹波篠山市スポーツ推進委員会

桶ッ卓球とは

平成23年に「こんだ薬師温泉ぬくもりの郷」を盛り上げるために丹波篠山市公民館職員によって考案された、丹波篠山市発祥のスポーツである。

桶ッ卓球とはダブルスで行う競技であり、基本的なルールは卓球と同じだが、ラケットとネットは風呂桶を使用し、サーブ時には「ア～湯（ユー）・桶（オーケー）？」「桶（オッケー）！」と声を掛け合うことや、ラリー中にオケネットに球が入っても、「オケッ ト！」と発声すればノーカウントになるなど、桶ッ卓球独特のルールがいくつかある。

桶ッ卓球は、すべての参加者が楽しむことと、お互いの親睦を深めることを目的とし、すべての競技者は普及啓発に努めなければならない。



1. 競技用具及び使用方法

- ① テーブルは一般の卓球台を使用する。
- ② ラケット(オケットと称す)は、風呂用の「木桶」とし、直径 20~25 cm、高さ 10~12 cmのものとする。装飾や安全の目的で「木桶」を加工しようとする場合は、「木桶」の原状を保つこととし、打球の性質に影響がないよう配慮すること。
- ③ オケットはどの面を使用して打ってもよいが、必ず両手で持たなければならない。
- ④ ネット(オケネットと称す)は、テーブル中央部ネット位置の端より木桶を裏・表の順で7桶を設置する。
- ⑤ 球は、一般の卓球で使用する直径 44 mm (オレンジのラージボール) のピンポン球を使用する。

2. 基本ルール

- ① 競技は、ダブルス(1チーム2名の競技者)とする。
- ② 競技者は、競技者等及び周囲に不快感を与えること、あるいは桶ツ卓球の品位を落とす行為を行ってはならない。行為が行われた場合は審判の判断により失点とする。
- ③ プレー中とは、サービス側のトスする競技者が「アー・ユー・オーケー?」と発言する前に手のひらで球を静止した時から、ノーカウントまたはポイントになるまでの間をいう。
- ④ 球がテーブルに触れる位置、競技者の立つ位置及びレシーブ順は自由とする。
- ⑤ 球は必ずオケットで打たなければならない。打球の際には、オケットを持つ手首から先の部分もオケットの一部と見なし、打たれた球は有効とする。ただし、次の行為を行ったときは失点とする。

- ・片手打ち：打球時及び打球直後に片手が離れたとき
 - ・ドリブル：打球時にオケット（手首から先を含む）に球が複数回触れたとき
 - ・キャリー：打球時にオケット（手首から先を含む）に球を乗せて運んだとき
- ⑥ 打球が、テーブルの上面エッジ（角）に触れたものは有効とするが、サイド（側面）に触れたものは失点とする。
- ⑦ サービスまたはレシーブした球が、オケネットに触れて相手コート側に入ったときは有効とする（オケットインと称す）。オケネットに連続して複数回触れて相手コートに入ったときも同様とする。
- ⑧ プレー中にテーブルまたはオケネットを動かしたときは、動かしたチームの失点とする。
ただし、競技者の身体の一部やオケットが、やむなくテーブルまたはオケネットに触れることはかまわない。
- ⑨ 球が障害物（天井・壁等）に当たったときは打ったチームの失点とする。

3. 試合

- ① 試合は3ゲームマッチで構成し、2ゲーム先取チームの勝ちとする。
- ② サーブまたはコートの選択は、ゲームトス（ジャンケン、コイントスなど）により決定する。
- ③ ゲームの勝敗は11ポイントを先取したチームを勝ちとする。
ただし、双方の得点が10ポイントに達した時はデュースとし、以降2ポイント差で上回ったチームを勝ちとする。
なお、1ゲームの勝敗決定ポイントは必要に応じて変更しても

かまわない。

- ④ サービスとレシーブは得点の合計が2ポイント増すごとに、それまでレシーブをしていたチームがサービスし、ゲームが終了するまで続ける。デュースになったときは、サービスとレシーブの順序を変えずに1ポイントごとにサービスを交代する。
- ⑤ ゲームの最初にサービスしたチームは、その直後のゲームでは最初にレシーブする。
- ⑥ ゲームの開始から終了までの間は継続的でなければならない。ただし、負傷等によりゲームの継続が困難な場合には審判の判断で中断してもかまわない。
- ⑦ 競技者または観戦者等が、主催者ならびに審判員の指示に従わない場合は、審判長の権限で当該者及び関係する者を退場処分とできる。

4. サービス

- ① トスする競技者とサービスする競技者が1本ずつ交代で行う。
- ② トスされた球を直接打ち、その球が最初にサービス側コートに1回触れ、続いてオケネットを越えてレシーブ側コートに触れるよう打球する。
- ③ オケネットに入った場合は、サービス側の失点とする。
- ④ トスする競技者は、「アー・ユー・オーケー？」とサービスする競技者に呼び掛け、サービスする競技者は「オーケー！」と応えてサービスを行う。
両競技者の発声がない場合は失点とする。

5. ラリー

- ① 球を打つ位置は自由であるが、必ずレシーブ側コートに1回

のみ触れた球を打たなければならない。

- ② コートに触れる前の球に、オケットが触れた時は、レシーブ側の失点とする。
- ③ オケネットの中で球が静止した場合は失点とする。
ただし、球を打ったチーム（どちらか1人で可）が、球が静止するまでに「オケット！」と発した場合はノーカウントとする。

6. 服装

- ① 安全に楽しく競技できるものとする。

7. その他

- ① この競技規則に記載無いことは、当該競技会の審判長と主催者の協議に従うものとする。
- ② この競技規則は平成27年1月1日から適用する。
- ③ 令和7年4月1日一部改正

